

(選択問題)

1. 解剖学的咀嚼筋について正しい組み合わせはどれか？

- a. 5種類ある
 - b. 内側翼突筋は下顎の前進や側方に動かす働きがある
 - c. 側頭筋には下顎を後退させる働きがある
 - d. 咬筋の起始部は顎骨弓である
 - e. 顔面神経支配である
- (1)a,b (2)a,c (3)c,d (4)c,e (5)d,e

- a × 4種類 (咬筋、側頭筋、内側翼突筋、外側翼突筋)
- b × 外側翼突筋は下顎の前進や側方に動かす働きがある。内側翼突筋は下顎の挙上。
- c ○
- d ○
- e × 咀嚼筋は三叉神経支配。

2. 顎顔面外傷について、正しい組み合わせはどれか？

- a. 労働災害によるものが最も多い。
 - b. 複雑骨折とは複数の骨折線が入るものである。
 - c. Le Fort I 型は上顎骨折の1つである。
 - d. 関節突起は下顎骨折の好発部位である。
 - e. 下顎骨折の治療は骨片の整位に主眼をおく。
- (1)a,b (2)a,c (3)c,d (4)c,e (5)d,e

- a × 交通事故が一番多い。二番は転倒転落。
- b × 骨折部が体外に出ているものを複雑骨折という。
- c ○
- d ○ 臼歯部、角部、関節突起頸部に多い
- e × 咬合の正常化。

3. 顎変形症について、正しい組み合わせを選びなさい。

- a. 顎変形症には遺伝要因がある。
 - b. Angle 分類は咬合関係による分類である。
 - c. 下顎枝矢状分割術は顎関節症の治療である。
 - d. Riga Fede 病は先天性小顎症を呈する。
 - e. 顎変形症の治療は咬合関係より、顔貌の整容に主眼をおく。
- (1)a,b,c (2)a,b,d (3)a,b,e (4)b,c,d (5)b,c,e

- a ○ ハプスブルグ家が受け口だったらしい。
- b ○
- c × 顎関節症は関節の障害で、外科療法としては関節円板の切除など。下顎枝矢状分割術は顎骨の骨切りと移動により咬合改善をはかる。
- d × Riga Fede 病は下顎乳切歯やその部分の先天歯が舌の下面に当たって潰瘍を形成する。
- e × 咬合の正常化。

4. 口腔ガンについて、正しい組み合わせはどれか？

- a. 南アジアが、口腔ガンの罹患率世界一である。
 - b. 日本では全ガン中10%を占める。
 - c. 喫煙、飲酒はリスクファクターである。
 - d. HPV感染はリスクファクターである。
 - e. 口腔ガンの96%が扁平上皮癌である。
- (1)a,b,c (2)a,b,d (3)a,b,e (4)b,c,d (5)b,c,e

- a ○ インド、パキスタン、中東に多い。
- b × 2-3%。中咽頭癌を含めても5%くらい。
- c ○
- d ○
- e × 92%くらい。

5. 口腔粘膜疾患について、正しい組み合わせはどれか？

- a. 白板症、赤板症は前癌病変であり、生検が必要となることがある。
 b. 上皮真珠は高齢者の無歯顎に好発し、切除の適応となる。
 c. 再発性のアフタ性口内炎は Behcet 病との鑑別が必要である。
 d. 口腔粘膜疾患の治療の基本は口腔内保清、含嗽、軟膏塗布であり、改善がなければ組織生検を考慮する。
 (1)a,d (2)a,c (3)d (4)a,c,d

- a ○
 b × 上皮真珠は乳児にでき、乳歯の生える頃自然に治る。
 c ○ 内科疾患の初発症状として口腔内にできることがあるので、内科でちゃんと対応。
 d × cと同じ。

(穴埋め問題)

再現できませんでした m(..)m 内容は、歯の構造、口腔乾燥などでした。

(記述問題)

1. 口蓋裂の治療について、keyword を用いて説明せよ。

Keyword) 鼻咽頭閉鎖、pushback operation、顎発育、手術時期

手術時期としては、2歳をすぎると言葉が話すのでそれまで(1歳半)には口蓋形成術を行う。pushback operation により口蓋から粘膜を切り離して鼻咽頭閉鎖を行うと顎発育の抑制がおこるため、pushback operation の変法により口蓋に粘膜を残して手術を行うと顎発育が良好。

2. Stage I の舌癌の治療について、keyword を用いて説明せよ。

Keyword) 根治性、機能温存、外科治療、小線源治療

Stage I では外科治療、小線源放射線治療、化学放射線治療全てで根治性がある。しかし、外科治療では小さいながらも切除することで機能障害が生ずる可能性がある。一方、舌内にプローブを刺し、放射線を当てる小線源治療では機能温存が図られる。

3. 口腔の良性腫瘍を歯原性・非歯原性に分け、発生源より分類せよ。

非歯原性良性腫瘍

上皮性：乳頭腫（扁平上皮）

多形性腺腫（腺上皮）

非上皮性：線維腫（膠原線維、線維芽細胞）

骨腫（骨梁）

血管腫（血管）

リンパ管腫

脂肪腫（脂肪組織）

神経鞘腫（シュワン細胞）

神経線維腫（シュワン細胞と神経鞘の線維芽細胞）

平滑筋腫、血管筋腫、横紋筋腫（筋原性）

色素性母斑（メラノサイト）

非歯原性良性腫瘍

外胚葉性：エナメル上皮腫（歯胚の上皮成分）

歯原性石灰化上皮腫

腺様エナメル上皮腫

中胚葉性：セメント質腫

象牙質腫

歯原性線維腫

歯原性粘液腫

混合性：歯牙腫（歯牙硬組織）

エナメル上皮線維腫

エナメル上皮歯牙腫

歯牙エナメル上皮腫

などなど。

4. 急性歯性感染症の治療について概要を、Keyword を用いて説明せよ。

Keyword) 原因療法、根本的治療、対症療法、原因歯、開口障害

原因療法として起歯菌に対する抗生物質（ペニシリン系、第1、第2世代のセフェム系）の投与。

開口障害の改善を指標に治療効果を判定し、効果が無いようなら他剤へ切り替え。

並行して対症療法として、水分や栄養を補充し抵抗力を高める。また、膿瘍を形成している場合は排膿を図る。口腔洗浄や抗炎症剤、鎮痛・解熱剤なども用いる。

急性症状が落ち着いても原因歯に起歯菌が残っていると再発するので、根本的治療として、根管治療や歯牙周囲の清掃、抜歯、腐骨の除去などを行う。

5. 以下の Keyword で顎嚢胞の臨床経過と臨床所見について書け

Keyword) 膨脹性成長、骨腫瘍、歯の異常、羊皮紙様感、病的骨折

顎嚢胞は無痛性に徐々に増大(膨脹性成長)し、骨を溶かしつつ大きくなり(骨膨隆)、骨が薄くなるのでペコペコし(羊皮紙様感)、やがて歯髓の圧迫などにより歯の異常(失活、変色、動揺、萌出位置異常)を起こし、さらに進むと病的骨折などを起こす。(骨腫瘍じゃなくて骨膨隆だと思う。)

6. 口腔系講義ならび古田勲先生の感想を述べよ。(配点アリ)

ご自由に